

2015 年度湘南藤沢学会「研究助成基金」成果報告書

40th International Society of Medical Hydrology & Climatology World Congress における口頭発表

慶應義塾大学大学院 政策・メディア研究科 後期博士課程 3 年
村上 慎之介

1. 活動日程・会場

活動日程：2015 年 8 月 24 日～2015 年 9 月 1 日

会場：Windsor Barra Hotel, Rio de Janeiro, Brazil

2. 活動の目的

本活動の目的は、自身の研究成果を国際学会「40th International Society of Medical Hydrology & Climatology (ISMH) World Congress」にて発表し、世界各国の研究者と議論を行うことである。申請者は博士課程において温泉水の飲用（飲泉）が人体に与える影響を分子生物学的に明らかにすることを旨とした研究を行っている。ISMH は温泉療法を扱う世界最大の国際学会であり、成果発表の場として適切であると考えられる。また ISMH は、日本における温泉医学の最大学会である「日本温泉気候物理医学会」とも連携のある国際学会であり、2014 年度は京都で合同大会が開催され、申請者も参加した経験がある。本学会に参加することによって、世界各国の温泉療法の研究者と議論することができると考えられる。本研究の成果は国際学術誌への投稿を控えており、本発表において議論した内容を踏まえて論文を投稿したいと考えている。また、本学会に参加することによって、温泉療法に関する世界の研究情勢を把握することができる点も重要な成果の 1 つであると考えている。

3. 活動の成果

「Consumption of hot spring water including high concentration of hydrogen carbonate decreases serum glycoalbumin levels in human」というタイトルで口頭発表を行い、自身の研究成果を発表した。従来、温泉の効能は医学的な研究によって裏付けられてきたが、効能がもたらされるメカニズムや、効能の個人差についてはほとんど明らかになっていなかった。本研究は慶應義塾大学先端生命科学研究所の最先端分析技術を利用して、温泉水の飲用（飲泉）が人体に与える影響を分子生物学的に明らか

にすることを旨としたものである。(具体的な研究成果については論文化を控えているため割愛する) 本学会には温泉医療に携わる国内外の主要な研究者が出席しており、様々な研究者と議論を交わすことができた。特に、口頭発表終了後は他の発表者や会場の研究者とともにディスカッションを行う時間が設けられており、密度の濃い議論を行うことができた。

また、自身の発表以外にもポスター発表では若手研究者による最新の研究成果が発表されており、今後の研究の参考になる手法を学ぶこともできた。世界的には温泉水はミネラルウォーターの一種と考えられており、本学会ではブラジルのミネラルウォーター会社の博覧会も共催されていた。ブラジルでは水道水を飲む習慣が無く、各家庭にミネラルウォーターサーバーを設置するためブラジル人はミネラルウォーターやそれが人体に及ぼす影響に対して非常に関心が高いという海外事情も学ぶことができた。



口頭発表後のディスカッション風景



発表証明書

4. 今後の発展

本研究の成果は国際学術誌への投稿を控えており、本学会で交わした議論を踏まえて論文の執筆に取り組む予定である。

5. 謝辞

本学会参加にあたり、資金面で援助いただきました湘南藤沢学会に御礼申し上げます。